

和歌山大学生協 和歌山まるごと健康フェス



[健康と安全]

取り組み概要

日時：1/21(水)10:00～14:00
場所：大学会館ラウンジスペース
参加者数：56名

背景：共済活動の4本柱の1つである「予防」活動が不十分であることから、組合員自らが「予防」に努めることが困難であった。

和歌山の魅力も！健康の魅力も！

POINT.1

健康×和歌山県の観光



和歌山大学の特徴である観光学部を企画に組み込むといった、組合員に親近感を感じてもらう工夫があります。本企画では和歌山県の観光地を模したブースを通し、組合員の健康意識を高めていました。

例えば、健康器具である握力計と和歌山県の名物である有田みかんを掛け合わせたブースでは握力計で出た数値が高ければ、有田みかんがよく絞れ、濃厚なジュースになるという評価でした。握力値が最も高い、つまり最も濃いジュースを作れた参加者には、実際に和歌山県で販売されている濃厚ミカンジュースが贈呈されました。

POINT.2

企画で終わらせない仕組み

本企画最大の目的は、組合員自身が日常的に「予防」を意識した生活を送ることでした。企画内で終わらせることなく、今後の学生生活で自ら健康意識を持ち続けることが求められます。

そのため、各ブースの結果から、管理栄養士さんに健康相談を行うことや、全ブース参加者に食堂の小鉢無料券を配布し、「普段の食事にもう一品追加する」という食事から健康に近づくという意識づくりをすること、ワークシートを活用し、後日見返すことができるという工夫がありました。



POINT.3

43全共セミと組合員の声と参加



本企画は第43回全国大学生協共済セミナーで得た学びを元に作られました。そして、セミナー内で学んだことをそのまま持ち帰るのではなく、自大学の現状や大学の特色を組み込んだ企画です。

そして、組合員の共済加入率や大学側からの「声」を和歌山まるごと健康フェスに「参加」することで、組合員の「声」と「参加」を生み出していました。